

すべての女性が輝く明日のために

JAUW会報

第261号
2017年7月



一般社団法人
大学女性協会



〈第6回定時総会特集〉

鷺見八重子会長あいさつ…… 2
全国セミナーのお知らせ

実行委員長報告・議事抄録… 3

CIR・神奈川支部長報告…… 4
研修旅行参加者報告

世界の女性との連携…………… 5

守田科学研究奨励賞贈呈式… 6

受賞者研究概要…………… 7

委員会から…………… 8～9

山本和代元会長を悼む
創立70周年記念募金中間報告

支部交流親睦旅行・北海道… 10

支部だより 北から南から… 11

2017年度国内奨学生募集の… 12

ご案内／催事のお知らせ
理事会から／新入会員

さらに一步前進!! ～リーダーシップを発揮して～

会 長 鷺見八重子

大学女性協会は昨年創立70周年を迎え、記念公開講演会と祝賀会および記念コンサートを開催し、皆様と共に人生で言えば古希となる節目の年を祝うことができました。9月の会長交代に際し、またその後も理事会に寄せられました温かいご支援に深く感謝いたしますとともに、新年度もどうぞよろしくご協力をお願い申し上げます。

新しい一歩となる第6回定時会員総会が、去る5月14日(日)横浜のベイシェラトンホテルで開催され、正会員813名のうち出席者129名、議決権行使書提出者383名、合計512名をもって総会は成立し、新理事として窪田憲子さん(東京支部)と伴紀子さん(愛知支部)が承認されました。

窪田さんは調査・研究事業と奨学金事業担当、伴さんは谷地森涼子さんに代わり支部担当業務に就かれます。

午後の懇談の部における GWI ケープタウン総会の報告では、山下 CIR 理事他5名の参加者による臨場感あふれる発表から会費値上げの背景、今後の課題等が浮き彫りになりました。理事会としては出来る範囲で責務を果たしつつ動向を注視してまいります。

総会開催地の神奈川支部の皆さまには大変お世話になり有難うございました。前日の支部長会と懇親会から最終日の研修旅行まで、配慮の行き届いたおもてなしに厚く御礼を申し上げます。

懇親会は、丸山若重支部長の発案により支部間の交流を深めるため、恒例のアトラクションを割愛し、支部長へのインタビューによる「ご当地自慢」。各支部のホームページから日頃の活動をすくい上げて話題を絞るなど周到なご準備が功を奏し、ベイシェラトンの美味しい高級フレンチ料理に花を添えてくださいました。

支部交流のハイライトは研修旅行「あみ貞丸」横浜港周遊でしょうか。海の幸ゆたかなテーブルを囲み和気あいあいの3時間ほど、名ガイド西村寿美子さんの横浜物語に触発され、文明開化の横浜にちなんだ家族の歴史やむかし話が間断なく続き、「港よこはま」から近代日本の黎明期の女

性のはたらきを思い起こす時ともなりました。

さて、2017年度の理事会事業計画の軸は、10月にヌエックで開催するシンポジウムです。4年目となる主要テーマ「女性の自立」を総括するにあたり、支部からの報告、女性エンパワーメント委員会による「めげないわたし」養成講座の成果などをふまえ、「女性の自立とリーダーシップ」をめぐり分科会で議論を深め、政治・経済・教育の視座から提言をまとめたいと考えています。

人と地球の未来のために、私たちがいますべきことは何か。2015年9月の国連総会で採択された「持続可能な開発目標」SDGsは、2030年までにすべての分野での男女比50・50を目指し、17の目標と169のターゲットを掲げています。日本政府は昨年末に施策指針を発表し、メディアでも様々な形で取り上げられるようになりました。

この目標の特徴は、「前例のない範囲を網羅し、先進国も途上国も同様に、すべての国に適用される普遍的な目標」と前文に記されています。さらに、「この偉大な共同の旅に乗り出すにあたり、我々は誰も取り残さないことを誓う。人々の尊厳は基本的なものであるとの認識の下に、目標とターゲットがすべての国、すべての人々及び社会のすべての部分で満たされることを望む」とあります。

目標5には、「政治、経済、公共分野のあらゆる意思決定において、完全な女性の参画と平等なリーダーシップの機会を確保する」と、私たちにあって喫緊の課題が明記されています。私たちも世界の女性たちと歩調を合わせ、それぞれの場でリーダーシップを発揮し、2017年をさらに一歩前進の年にいたしましょう。



2017年度 全国公開セミナーのご案内

テーマ「女性の自立－真のリーダーシップを発揮するために－」

日時：10月26日(木) 13:30～27日(金) 16:00

会場：国立女性教育会館

<1日目> 13:30～17:00

1 委員会報告(新規事業、女性エンパワーメント、国際ネットワーク)

2 基調講演 室伏さつき子会員(お茶の水女子大学学長)

3 支部報告(新潟、茨城、神戸)

<2日目> 9:30～16:00

1 分科会 9:30～11:30

①どう打ち砕くガラスの天井(女性と仕事)

②教育が世界を変える(リーダーシップを育てるには)

③政治を日常に取りこもう(アクションの社会参加)

2 パネルディスカッション 13:00～15:30

コーディネーター：鷺見八重子 JAUW 会長

パネリスト：松本侑子氏(映画評論家・ジャーナリスト)

加納孝代会員(活水女子大学前学長)

分科会リーダー3名

3 まとめ・提言 15:30～16:00

詳細(申込方法・参加費・懇親会費等)は別紙参照下さい。

全国総会・ 第6回定時会員総会開催報告

神奈川支部実行委員長 市川知恵子

2017年度全国総会は横浜で開催となりました。全国から大勢の会員の皆さまに参加いただき3日間の行事が無事終わりました。格別のご理解、ご支援に心から御礼申し上げます。神奈川支部では2005年に磯子で開催いたしました。動ける支部会員はその時より少なくなりました。が、元会長経験者の房野会員、田中会員の励ましに力を得て少数精鋭を自負して総会の成功へ向けて神奈川支部一同で頑張ってきました。5月13日の支部長会は、横浜駅近くの貸し会議室「AP 横浜駅西口」で全国から集まった支部長20名と理事・監事15名が活発な意見の交換をしました。理事からは報告と説明があり、特に阿部監事の実施事業と財務状況の説明は支部長の方々によく理解できたと感謝されました。続いて18時からは横浜ベイシェラトンホテル&タワーズで懇親会が開催されました。会員の年齢や好みを考慮した上品なフレンチのフルコースとなりました。司会は西村会員。美味しいお食事と楽しい会話をお楽しみいただけましたでしょうか。会員がより親しく本音トークができるようにと、今回の懇親会ではアトラクションを支部交流の時間としました。「人と人をつなげて」をモットーに丸山神奈川支部長が司会をしました。支部活動の情報交換が真剣に行われ、支部の強みや弱み、社会の課題など有意義な話し合いでした。皆さんが懇親会に来た時より笑顔で元気になって帰られたのは本当に嬉しいことでした。14日の第6回定時会員総会には129名の申込みがありました。総会会議場のバザーでは気の利いた品物が多く大変喜ばれました。全国総会のハイライトは15日の屋形船でした。横浜独特のハイカラ文化と江戸文化の屋形船の融合で寛いだ語らいがありました。ゆっくり落ち着いていろいろな支部の方のお話が聞けて「ひとつ上の自分が見つかった。」と大好評でした。全国総会へのご協力に篤く感謝申し上げます。



報告及び懇談

総会午後の部ではGWI ケープタウン総会の報告があった。山下 CIR が会費値上げの実態と今後の課題について説明。ケープタウン総会について牧島副会長、松村理事、鈴木国際ネットワーク委員長、平井会員、三木谷会員が現地へ行きGWI 総会に参加してこそ理解できた諸外国の事情を映像とともに報告。今後の戦略的対応が期待された。次に委員会委員長と支部長の報告があった。70年の歴史のある当協会にふさわしい南から北までの事業活動報告に「さすがJAUW」という感銘の声が会場に溢れた。最後に総会開催地の丸山神奈川支部長より挨拶があり16時に閉会となった。

第6回定時会員総会議事抄録

日時：2017年5月14日9：30～12：05

場所：横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ4階「浜風」

1. 総会成立確認：菊池総務理事より2017年5月14日、午前9時30分現在の出席者数106名、議決権行使書提出者数383名、出席者合計489名を報告。正会員813名の過半数407名以上の出席により、総会の成立を確認。
2. 開会の辞：逝去会員10名の冥福を祈って、黙祷。ついで鷺見会長より開会の挨拶があった。
3. 議長選出：定款に基づき鷺見八重子会長が議長となる。
4. 書記選出：菊池摩耶子・市川知恵子
5. 議事：

第1号議案 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件：鈴木会計理事より、2016年度補正予算について財務理事に代わり説明がなされた後に、中村会計理事より議案書に基づき貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記について説明がなされた。続いて縄田監事より業務及び会計監査の報告があった後、議長が同議案の承認を諮り、異議なく承認可決された。

第2号議案 理事2名選任の件：議案書に基づき牧島副会長より提案理由及び役員選考委員会からの理事候補者推薦についての説明の後、議長が「理事候補者 窪田憲子、伴紀子の選任」を議場に諮ったところ、挙手賛成115名、議決権行使書の賛成票383名、計498名がこれを承認し選任可決された。尚、被選任者はその席上で就任を承諾した。

報告事項：1. 2016年度事業報告 2. 公益目的支出計画実施報告及び監査報告 3. 2017年度事業計画及び予算
以上の報告について各担当理事が説明し、監査については阿部監事からの報告があった。

定時会員総会の議事を終えて議長解任。

6. 全国セミナーについて：梅田副会長より説明があった。

日 時：2017年10月26日（木）10月27日（金）

会 場：国立女性教育会館（ヌエック）

基調講演：室伏きみ子氏（お茶の水女子大学学長）

テ ー マ：女性の自立とリーダーシップ（案）

7. 会員拡大の件：縄田会員拡大委員会委員長より仙台支部における会員拡大ワークショップの報告があった。今後も活動を継続して会員拡大を目指す。
8. 「70周年記念募金について」：牧島副会長より創立70周年記念として昨年から始めた募金へ更なるご理解・ご支援のお願いがあった。
9. その他：①鷺見会長より次回総会は2018年5月12日、13日に静岡で開催すると発表された。
②山下理事よりGWIの「VGIF」ヴァージニア・ギルダースリープ国際基金の説明と協力の呼びかけがあった。
以上をもって第6回定時会員総会は閉会した。

GW I の現状と JA UW について

CIR 山下いづみ

GW I は2019年に100周年を迎える

JA UW は加盟して63年、これから私たちはどう歩むのか

今までに JA UW は世界大学女性連盟 (IFUW、現 GW I) 総会を2回、アジア大学女性連盟総会を1回開催している。また、会長、委員会委員長、委員も選出している。現在、加盟国は60カ国。昨年のケープタウン世界大会で執行理事から3年間の活動報告があった。90%の国別協会 (NFAs) が連盟に残留し、60%の協会が会員数を維持し、50%の会員が満足をしているということだった。今大会での一番の関心事は年会費値上げで、結果は毎年10、6、6スイスフランずつ上げていくことになった。その結果、大会後、32カ国から支払いできないという連絡が殺到、GW I 理事会は、総会で決定した「年会費値上げ」は、変更できないが、延期をするとし

た。現在、GW I ではすべての財政状況を見直し、会員からの意見の吸い上げをしている。

GW I は会員向け情報、国連、各国の政府へ提出する意見書、セミナー等をメール、インターネットを利用して発信し、JA UW は一部翻訳し、会員に提供している。また、加盟国会員同士の交流もある。63年目の今、GW I加盟国として、私たちJA UW が国際組織の一員として何ができるのか。改めて会員に問う有意義な総会企画であったと思う。



横浜の全国総会を振り返って

神奈川支部長 丸山 若重

横浜総会は、①ホテルは豪華に、②それ以外は簡素に、③会員の交流を優先、を基本方針で進めた。総会の目的である話し合いを大事にし、費用の面も考えて簡素にしたい。一方で、全国から横浜に集まる会員には、充実した楽しい時間を過ごして貰いたい。こうした事を勘案して、早い段階で、本部による GW I の説明会と懇親会の支部交流とが決ま



った。神奈川支部は忙しい人が多くて慢性的に人手不足だが、ひとこと頼めば完璧にこなす会員ばかりなのと、お隣の東京支部の方の

助けもあって、総会準備は滞りなく進んだ。会場は一流ホテルだったし、バザーの担当者は魅力的な品を揃えてくれた。親睦旅行の屋形船も、食事をしながらゆっくり話をして貰う目的にぴったりだった。支部交流会に役立てるため支部HPから情報を集めてくれたり、プログラムなどのデザインや印刷を行ったりと、裏方作業をしてくれた会員もいる。もう一つのポイントは、事前に会報の発行計画を正確に聞いた事である。「どの会報にどの情報を載せるか」を目安にしたら、作業の優先順位付けがしっかりとできて、全体の効率化につながった。

以上、総会準備の様子を簡単に書いた。今後のご参考になれば嬉しいと思う。

対話と親睦の時間を屋形船で

新潟支部長 高橋 令子

横浜港を屋形船で周航するというのでワクワクして乗船しました。最初は昼食の時間で、船の中で揚げた天ぷらが美味しく、同席した皆様との話もはずみました。

神奈川支部の方が、横浜の街の歴史を説明してくださいましたが、とても聞きやすく内容も良くて、さすがJA UW 会員だと思いました。横浜は、外国文化の入り口だったので、「日本で初めて」が多数あるとのことでした。ビール醸造、撮影所、石鹼工場等。日本初の民間病院である「十全病院」の初代院長は、現東京支部長中山様の御祖父様だったことがわかり、急遽中山様の思い出をお聞きました。

昼食が終わり、船が沖に出る頃、船内は全国から集まった皆様の会話が盛り上がりしました。カラオケもあるとのことでしたが出番がありませんでしたので、私は、手遊びと歌を

させていただきました。「絵本の読み聞かせライブ」でいつもやっていることです。指の体操や、「バラが咲いた」を歌いながら肩たたきをしました。気分転換になったでしょうか？



来年は横浜も新潟も開港150周年の慶祝で賑わう事でしょう。名所巡りでなく、屋形船の中でのコミュニケーションを目的とした研修旅行は、大変有意義だったと思います。

3日間にわたりお疲れにもかかわらず、ご参加下さいましてありがとうございました
(神奈川支部 S.N.)

世界の女性との連携

CSW NGO フォーラム参加

国際ネットワーク委員長 鈴木千鶴子

第61回国連女性の地位委員会（CSW）が、2017年3月13日から2週間、ニューヨークの国連本部で開催され、経済社会理事会の諮問資格を有する国際婦人年連絡会（事務局長：牧島悠美子本会副会長）などを通して日本の複数のNGOから数十人が参加しました。JAUWは国際婦人年連絡会の加盟団体として、例年会員有志は申請を行い参加することが可能です。今回本会からは若者支援の田中悠里子さん、岡崎優子さん（岡山支部）と鈴木が、会の特別手配で参加資格を得た小川桃子さん（大学生）、および国連NGO国内女性委員会からの青木怜子さん（委員長）、ならびに国際婦人年連絡会からの牧島悠美子さんとともに、合わせて6人が参加しました。

帰国後一ヶ月以内の興奮も冷めやらない4月22日、その6名を発表者に報告会を開催しました。他団体からも含め25名ほどの出席者で、事務所会議室は熱気に包まれ、国連の会期を彷彿とさせる3時間でした。内容は、「概要」（牧島）に始まりほぼ日程に沿い、NGO/CSW New York 主催の「コンサルテーションデイ」（鈴木）、「Youth Forum と Advocacy Training」（小川：田中代読）、「GWI ランチオンパーティー」（岡崎）、ご自身がモデレータを務められた国連日本代表部と日本のNGO3団体との共催による「サイドイベント：女性の経済力強化に向けての鍵」（青木）、「NGO/CSWブリーフィング」「日本政府代表部とのブリーフィング」「各国各種NGOによるパラレルイベント」（田中）、最後に「本会議」と「合意結論分析の概要」（鈴木）で締めくくりました。参加者からの、青木モデレータのサイドイベントが好評であったとのコメントや参加準備を早めに行うべきとの提案などで、今後の取り組みに弾みが付きました。



CSW61フォーラム参加で最も印象に残った事

岡山支部 岡崎 優子

GWIランチ交流会、愉快で活動的な会員に出会いとても驚く。洋服の好みと話し方！体格は随分違うが岡山支部会員に極似。2日後社会福祉士の彼女が登壇するWG-USA主催パネル「難民移民・女性の経済的エンパワメントへの挑戦」へ。司会者は、以前 IFUW 総会で面識あり。研究者、心理療法士、社会福祉士など支援者の発言が続き、最後にカメルーンから避難、支援により教育の機会を得て、研究者として活躍の若い女性が体験談を語る。トランプの入国制限命令に憤慨していたが、米国NGOの底力を実感。岡山でも地道な活動の継続を誓う。



CSW61フォーラムに参加して

北欧森のようちえん・自然保育サポート 田中悠里子

北欧デンマークで幼児教育を学ぶ中で、ジェンダー平等の社会の在り方を目の当たりにし、日本の現状に問題意識を強く抱くようになり、CSW61に参加させて頂きました。Youth Forum では、参加85カ国のユースのジェンダー問題に対する意識の高さに衝撃を受け、SDGs 達成にはマインドセットの変革と具体的行動が不可欠であることを再認識しました。全体を通して、先進国の責任の大きさを痛感し、世界との『連帯』とNGOの活動の意義を感じられたことは大きな収穫でした。貴重な機会を与えて下さった大学女性協会の皆様に感謝申し上げ、今後は会員として皆様と学び活動させて頂きたいと思っております。



国際女性デーによせて 〈203050〉SDGsの実現をめざして～ふーんで済ませていませんか？～

牧島悠美子

毎年3月8日の国際女性デーによせて、JAUW では国際ネットワーク委員会を中心にシンポジウムなどを行ってきた。2016年度は平松昌子日本 BPW 連合会元会長・国際婦人年連絡会元世話人を迎え、2月27日（月）に標記のタイトルでお話を伺い、意見交換を行った。

平松氏はジャーナリスト出身。定年後「女性という不平等を何とかしたい」としてたどり着いたのがSDGs（持続可能な

開発目標）である。目標5には「ジェンダー平等を達成し、女性と女兒の能力を強化する」とある。（P2右欄参照）

「誰も取り残さない」皆で平等を勝ち取ろう。そのために、あなたならどうする？！様々な分野の平等を達成しなければならないが、まずは最も引き上げるべき政治分野での女性力発揮を!!! 平松氏の熱いトークは、女性議員を増やすために「ふーんで済ませないでください」とのアピールでもあった。

第19回大学女性協会 守田科学研究奨励賞贈呈式



科学研究奨励委員会委員長 今野 美智子

第19回守田科学研究奨励賞の贈呈式、受賞パーティがアルカディア市ヶ谷会館で6月4日（日）開催された。受賞者は、分子神経遺伝学分野の太田茜博士と錯体化学分野の近藤美欧博士である。

太田茜博士は名古屋大学理学部を卒業後、線虫の研究を行い修士課程を修了した。その後、企業ではゲノム DNA の一塩基多形と疾患解析するソフトの開発に携わった。2011年名古屋大学大学院医学系研究科医学博士課程修了と同時に博士（医学）を取得、現職の甲南大理工学部の研究員として研究に携わり、温度に対する適応機序について、線虫のシンプルな系を用いて「低温適応」現象を分子遺伝学的に解明し、Nature Communications（2014年）に発表され高く評価された。ハンディキャップをもちながら、39歳という年齢で2人の子を抱え、さらに非常勤講師と学振特別研究員という不安定な立場で研究を継続し、業績を積み重ねていることには敬意を表する。

近藤美欧博士は東京大学理学部化学科を卒業後、大学院修士課程に進学、ドナーアクセプター系における電子移動反応制御の研究で2008年に博士（理学）を取得した。日本学術振興会特別研究員として京都大学物質—細胞統合システム拠点にて集積型金属錯体を利用した機能性材料の創出の研究に従事した。2011年より分子科学研究所の生命・錯体分子科学研究領域の助教に就任し、それまでの研究分野を統合拡大して集積型金属錯体を利用した多電子酸化還元触媒の開発を目指して多くの研究成果を上げている。その中でも、天然光合成反応の考察から生み出された鉄5核錯体触媒による酸素発生は、既存の酸素発生触媒と比較してその活性は1000倍以上高いもので、Nature（2016年）に発表された。Science、Nature Materials、Nature Communications、Journal of the

American Chemical Society などのトップジャーナルにも発表され、研究者として卓越した実力を持つことが示される。

鷺見八重子会長の挨拶の中で、この賞の貢献について、またこの協会が、様々な奨学金を設け多くの方を援助していることが紹介された。賞の授与に引き続き両博士の受賞講演が行われた。太田博士は低温適応のシステムの研究を、近藤博士はエネルギー問題における研究の位置づけを分かりやすく紹介され、参加者は話に引き込まれた。分子科学研究所川合真紀子所長からご祝辞が述べられた。祝賀会にも、ご家族に出席いただき、終始なごやかな雰囲気でご交を深めた。

第20回 大学女性協会守田科学研究奨励賞 受賞候補者募集要項

趣 旨：本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。

対 象：自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（2018年4月1日現在）の女性科学者を対象とします。

授賞件数：年 2件 以内
賞状および副賞50万円を贈呈します。

提出書類*

1. 研究題目とその概要、今後の展望および抱負（A4判2頁以内）
2. 推薦状（厳封）
3. 履歴書
記載項目：氏名（ふりがな）、（英字表記）、国籍、生年月日（年齢）、現住所・電話、所属機関（住所、電話、FAX、e-mail）・職名、（連絡先に○）、専門分野、学歴（高校卒から）、学位、職歴、賞罰
4. 研究業績リスト（主要な論文は○を付記）
記載項目：原著論文（査読付）、原著論文（査読なし）、総説・その他、著書、受賞歴、学会発表（国際学会、国内学会（招待のみ））、競争的資金
5. 主要な論文5編以内の別刷り

*返却いたしません。1. 3. 4. は各15部、2. は1通、5. 論文別刷り（コピーでも可）は3部提出のこと。

応募締切日：2017年11月20日（月）（必着）

選考結果の通知：2018年3月

書類送付先・連絡先：一般社団法人 大学女性協会
〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101
Tel：03-3358-2882 Fax：03-3358-2889
http://www.jauw.org e-mail：jauw@jauw.org

温度情報伝達の分子制御機構

甲南大・統合ニューロバイオロジー研 特別研究員 PD

太田 茜



温度は生物の生死に直結する重要な環境情報である。そのため生物は、環境温度が変化しても生存・繁殖するための適応機構を備えている。しかしながら、温度感知とそれに伴う応答適応の分子メカニズムは、未解明な点が多い。

そこで、シンプルな実験動物である線虫 *C.elegans* を用いて、動物の温度適応や耐性を解析した。温度が関わる現象として、*C.elegans* の低温耐性に注目した。低温耐性とは、25℃で飼育した個体に2℃の低温刺激を与えると死滅するのに対して、15℃飼育個体は2℃でも生存できる現象である。低温耐性に関わる組織を同定するために、多くの変異体の低温耐性を測定したところ、感覚神経で機能するcGMP依存性チャネル (TAX-4) の変異体において低温耐性の異常がみられ、従来は光を感知するとされていた感覚ニューロン (ASJ) において、TAX-4が低温耐性に関わることを発見した。さらに、光技術を駆使して、ASJ 感覚ニューロンの温度に対する反応性を測定したところ、光受容ニューロンであるASJは温度も受容していた。また、この温度情報伝達は、ヒトの視覚情報伝達と同様の分子機構で制御されていることが示唆された。また、ASJ 感覚ニューロンは、インスリンを分泌することが知られていたため、インスリンが腸と神経で受容され、低温耐性が制御されることを明らかにした。以上の結果より、特定の感覚ニューロンが温度を感知し、そのニューロンがインスリンを分泌することで、腸などに働きかけ「全身」の温度耐性を獲得させるという生体調節システムの創出に至った (Ohta et al., Nature commun, 2014)。

さらに、腸の下流で精子が温度耐性に関与し、精子から頭部神経系へのフィードバック制御機構の存在を明らかにした (Sonoda, Ohta et al., Cell Reports, 2016)。最近、飼育温度をわずか3時間変化させるだけで低温耐性が獲得あるいは消失するという可塑的な変化 (温度馴化) について、分子および神経回路レベルで理解することを目指している。

生体機能模倣型 多電子酸化還元触媒の開発

自然科学研究機構 分子科学研究所

生命・錯体分子科学研究領域 錯体物性研究部門 助教

近藤 美欧



現在人類が直面するエネルギー・環境問題を解決に導くために、貯蔵性の高い化学エネルギー源をクリーンに生産する技術の開発に対する要請が高まっている。多電子移動を伴う小分子の変換反応 (多電子酸化還元反応) は、地球上に

豊富に存在する水・二酸化炭素・窒素などから有用な化学エネルギー源 (水素・メタノール・アンモニア等) を得ることができる非常に魅力的な反応である。

私は、多電子酸化還元反応の一つである水の酸化による酸素発生反応 ($2\text{H}_2\text{O} \rightarrow \text{O}_2 + 4\text{H}^+ + 4\text{e}^-$) を高効率に進行させる触媒の開発に従事してきた。その中で、天然の光合成反応における酸素発生触媒 (Oxygen Evolving Complex, OEC) に着目し、OEC の構造を単純に模倣するのではなく、OECの構造のどの部分が高い酸素発生能と関連しているかを考察することで、高活性な触媒が得られるのではないかと考えた。このコンセプトを生体機能模倣型触媒デザインと呼ぶ。

この生体機能模倣型触媒デザインに基づき、私は鉄イオンと有機配位子により構築される鉄五核錯体を触媒として用いることとした。この鉄五核錯体は、酸素発生反応の進行にとって重要な多電子移動反応を促進する「多核構造」と結合生成反応を促進する「近接した活性サイト」とを有している。

実際にこの錯体を用い、電気化学的条件下、水を存在させ反応を行ったところ、変換効率96%という高い効率で酸素発生反応が進行することが明らかになった。そして、酸素発生速度は毎秒1,900回に達した。この値は、既存の鉄錯体触媒と比較して1,000倍以上大きなものであり、反応条件が異なるため厳密な比較は難しいものの、植物の光合成における酸素発生反応速度 (毎秒400回) をも上回っていた。更に、触媒の耐久性を示す触媒回転数も100万回以上と、耐久性も十分に高いことが明らかとなった (Nature, 2016, 530, 465-468.)。

「めげないわたし」養成講座 シリーズⅢ「仕事とライフデザイン」

女性エンパワーメント委員長 城倉 純子

過酷な人生を生き抜き、多くの女性に多大な影響を与えている話題の米女性司会者オプラ・ウィンフリー氏が、「周りの評価や意向を気にしすぎたり、周囲との足並みを揃えることばかりに一生懸命になっていると、自分が本当は心の底から何を求めているのか、どんな人生を生きたいのか判らなくなってしまう」と述べていますが、私たち女性は自分の心の声に従って生きているのでしょうか？自己の内なる声を信じて自分の人生の舵を取ることができるように、「めげないわたし」養成講座では、社会の問題に取り組みながらそれぞれの人生を生きぬいておられる方々を発題者に迎え、メンターの空間も提供しながら、今年で3年目を迎えます。

シリーズⅢの最終回は、「予測不可能な未来に立ち向かう～シナリオを書くのは、誰？」をテーマに、楽天元CEOの黒坂三重氏をお迎えし、常に二者択一を迫られた人生の大切なシーンをどう乗り切ってきたか、また、今後の社会の行方を語って頂き、参加の皆さまとの本音トーク・セッションに繋がります。ビジネス界のCSRが問われてきている中、NGO/NPOとの連携も重要なポイントになりつつあります。ヒント満載のこの機会を、どうぞお見逃しなく！！



今年度第1回の講師中島明子氏（鷺見会長右隣）と交流

視点 生活保護家庭と大学進学

今回の視点のテーマは、生活保護世帯の子どもは大学進学が許されないという制度上の規定と、それが貧困の再生産に繋がる懸念についてです。女性の高等教育を目的に掲げるJAUWです。今回は、法律の専門家である弁護士の中村久瑠美前会長に制度面からのお話を伺いました。

今後、視点では、教育を受ける権利とその保障、受益と還元等も視野に入れ、疑問に思ったことを専門家に聞くというコーナーにしていきたいと思っています。

Q1、生活保護家庭に大学進学は許されないのでしょうか

A1、生活保護は憲法25条の「健康で文化的な最低限度の生活」を保障するための制度ですから、原則は否です。しかし生活レベルの向上によって個々の運用は変わってきており、例えば高校進学率の向上に伴い、70年の法改正で生活保護世帯からでも高校進学は認められています。大学進学も将来自立のため必要と認められれば、生活保護世帯であっても、現在は進学は可能です。但しその子は「世帯分離」をして、保護世帯から外す必要があります。

Q2、保護世帯から外す、とはどういう意味ですか？

A2、生活保護は世帯単位扱いの為、18歳を自立できる存在と見て個人世帯とするのです。親の世帯からその子の分の保護費が削られるので厳しいことにはなりますね。

Q3、子ども本人も学費と生活費の工面は大変ですね。

A3、現在、大学生の出身家庭の25%が生活保護家庭という統計があります。大学に入った、というところに貧困の連鎖を断ち切る可能性を見るか、日本社会における貧困層の定着・拡大を見るのか、生活保護家庭出身者だけでなく、大学修了後まで自活を先送りしている学生も、社会と自らのあるべき姿を考えるべき時ではないでしょうか。

皆さまも聞いてみたいと思うことがありましたら、編集部までお知らせください。（広報委員会）



山本和代元会長を悼む

阿部 幸子

山本和代元会長が5月12日に急逝され、そのお知らせを受けたのは、2017年度の総会行事が終わった日のことでした。総会やセミナーの折に、いつも会場から質問に立たれ、その厳しい追及に緊迫した空気が流れたこともあった日々を、今は懐かしく、もはやそのお姿に接することが無くなってしまった寂しさをしみじみと感じています。

1998年度からの4年間に会長として務められましたが、創立70周年記念誌『ことばの肖像』に収録された「会長の辞」を読み返すごとに、この時代を知らなかった私にとって新たな発見がありました。青木怜子元会長がIFUW会長に就任され、IFUWとの連携のもとに活発な活動が行われた時期にJAUWの会長としての重責を担われ、その発展に尽くされましたことに改めて感謝を申し上げます。

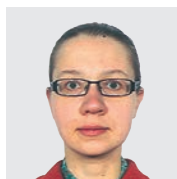
お別れの際に、山本姉が若き日に日本女子大学の創立者成瀬仁蔵を知り、信仰に導かれ、女性の男性に従属した生活からの解放を強く願って生涯を社会教育に捧げられたことを知りました。その熱烈な思いに貫かれたご生涯を終えられた今、どうぞ安らかに、そしてあの温かな眼差しで私たちをお見守りください。



2017年度 国際奨学生選考結果

国際奨学委員長 岩村 道子

2017年度国際奨学生が決まりました。



ライサ・ポッラスマーさん

ライサ・ポッラスマーさん（35歳）はフィンランドのヘルシンキ大学博士課程在学中で同大学の非常勤講師もしています。2018年1月4日～3月31日まで法政大学の子秋元段教授のもとで、「日本中世文学におけるパロディ」について研究をいたします。



スン・リンさん

スン・リンさん（32歳）は香港中文大学博士課程在学中です。9月10日～2018年2月10日まで早稲田大学 Gracia Liu-Farrer 教授のもとで、「幸福論：日本と中国の若い夫婦の結婚の幸せ感」について首都圏の若い夫婦を対象にアンケート調査を行う予定です。

初夏の夕べのコンサート

宮下摩維子

6月21日、フルート奏者の太田嘉子氏、ファゴット奏者の太田茂氏、ピアノ奏者の興口理恵氏を迎えて、初夏の夕べのコンサートが華やかに開催された。「歌の翼による幻想曲」から始まったコンサートは、ライネッケ・ジョリヴェなどによる楽曲に加え、馴染み深い久石譲「Stand Alone」やビゼー原曲の「カルメン幻想曲」も演奏され、終演後も長く心に余韻を残すものであった。

爽やかで可憐なフルート、重厚感と多少のノスタルジーを感じさせるファゴットは、独奏でもその音色に引き込まれたが、それ以上に合奏によって生まれる臨場感に心奪われ、楽器のもつ可能性に驚かされる思いがした。それぞれの楽器が交互に主旋律を奏で、フルートでは可憐さと妖艶さをあわせもつカルメンが、ファゴットでは力強く自信に溢れた闘牛士が、まるで目の前で踊りだし、歌いだすようであった。更にピアノの軽やかな演奏が、両者のハーモニーに華やぎを与えていたようであった。

普段はあまり触れることのない木管楽器の響きを心ゆくまで堪能した一夜となった。



メンタープログラム立案勉強会

新規事業委員長 松本由美子

6月18日、メンターエバンジェリストの磯田成美さんをお迎えして、人材バンク登録者の活用＝メンターカフェの開催に向けて、メンターの基礎知識の習得を目的に勉強会を開催した。

内容はメンタープログラムの一般的な基礎知識、新たな潮流、JAUW としてできるメンタープログラムとはなど。まずはチェックインと称するユニークな自己紹介から始まった。JAUWのメンターカフェは日本の女性の生き方をどう変えるのか？社会にどういうインパクトを与えるか、800人の会員の経歴や知識を生かしていくことが求められているが、メンタープログラムの作成にあたっては、メンティ（被メンター）のニーズ分析、設計、開発、実施、評価のいずれも丁寧につくっていくことが大切であるという。

磯田さんはメンターエバンジェリストとは何かと聞かれ、「人生の支援者」とお答えになり、あっという間の2時間半の勉強会でした。



募金委員会中間報告（その2）

委員長 牧島悠美子

創立70周年記念募金事業（目標額1000万円）にご協力いただきまして心より感謝申し上げます。2016年11月12日開始の募金に、2月1日～5月31日の4ヶ月の間に延べ60人、金額にして133万9千円の寄付をいただき、11月以来延べ261名、総額361万5千円となりました。厚くお礼を申し上げますとともに、今後ともよろしくご支援をお願い申し上げます。

（一社）大学女性協会 創立70周年記念募金寄付者ご芳名

敬称略・支部別 五十音順

2017.2.1～5.31

（札幌支部）堀内満智子 （秋田支部）川上弘子 （仙台支部）相澤富美江、黒澤和子、渋谷由美子、谷地森涼子 （新潟支部）大淵智絵、小林裕子、高津恭子、長谷川道子 （茨城支部）後藤美智子、高坪富美子 （栃木支部）糸井 克 （群馬支部）岡崎朋美 （東京支部）岩村道子、内野雅子、草薺美智子、後藤晶子、駒木三枝子、武田千枝子、田中祥子、端本和子、樋口佳子、廣田貞子、藤枝史子、藤川真理子、藤森洵子、堀口裕子、三浦由紀子 （神奈川支部）鷺見八重子、守山 泰、渡部由紀子 （静岡支部）越村とくゑ、鈴木久枝、二渡公子 （愛知支部）内川久仁子、松崎園子 （金沢支部）鍋木久美 （福井支部）西川清美、東野香里 （京都支部）田中ひな子、辻野茂子、中島伸江、橋本吉恵 （奈良支部）和田アイ子 （神戸支部）池田説子、杉本和子、鈴木京子、前田千穂子、美野寿々子 （岡山支部）大倉美恵 （広島支部）児玉明子 （大分支部）和田輝美 （福岡支部）石蔵幸代、井上洋子、和栗方子 （長崎支部）鈴木千鶴子、中田慶子

支部交流親睦旅行に参加して

(1日目) 6月26日 (月) 札幌支部交流会

千歳空港に九州、中国、関西、北陸各地からの会員、鷺見会長はじめ、前・元会長など30名が集合。札幌支部のお出迎えを受け、市内観光へ。



豊平館の前に全員集合



札幌支部の方々

明治以降に道庁都市として開発された札幌。中島公園の緑の中、市内をバスで観光、明治天皇行幸跡が保存されている豊平館を見学、由緒あるエルムガーデンでは札幌支部との会食と交流会。広大な石狩平野に

開けた160万都市は坂道の多い神戸とは違った趣がありました。

(2日目) 6月27日 (火) 札幌から小樽、余市、洞爺湖へ

札幌の爽やかな風の中、バスは広大なジャガイモ畑を一直線に小樽へ。北一のヴェネチアンガラスの展示品に見入り、運河を眺め、小樽寿司屋通りで念願の新鮮なお寿司を頂きました。午後はマッサンのドラマゆかりの余市蒸留所を見学。3種類の試飲に酔い、宿ウインザーホテル洞爺までぐっすり。洞爺湖を見下ろす壮麗なお城のようなホテルロ

ビーで覚醒。大浴場で旅の疲れをいやした後、ディナーへ。サミットで知られる仏料理は前菜の前に7種類の小皿を満喫、色とりどりのメニューが続き、デザートの前にダウンとなる素晴らしい経験でした。



JAUW
名入りパン

(3日目) 6月28日 (水) 支笏湖から函館へ
支笏湖で散策、昼食の後、3日間にわたり行く先々で参加して下さった札幌支部の皆様とお別れし、函館への列車に乗り込みました。

(神戸支部長 三木谷節子・平井典子)

(4日目) 6月29日 (木) 函館支部との交流会

総勢12名が28日の夜、函館に到着。早々に夜景を見るために函館山に登りました。展望台・ロープウェーは満員電車のような混みようでも、天候に恵まれ夜景は見事でした。



函館支部との交流会

函館支部が有名な五島軒での昼食会を企画

して下さり、3名の函館支部会員が参加されました。鷺見会長の挨拶の後、おいしい食事を頂きながら、支部の実情(現在会員5名)等を伺いました。その後、五島軒の社長自ら函館の歴史と、館内を案内しながら五島軒の歴史をお話しく下さり、昼食会は終了しました。函館支部の方々が、鷺見会長はじめ本部・他支部の方々と交流を持てたことを本当に喜ばれていました。この旅行に参加した私も札幌・函館支部の方々にお会いできたことが一番嬉しかったことです。

(事業担当理事 松村和子)

次回は皆さんふるって参加しましょう！楽しいです。

財務委員会での思い出 故井口美登利様のこと

もう何年前になるでしょうか、東京支部副委員長として、委員長比留間さんと東京支部でお若い方と言われて楽しく活動してた頃、“財務でわたくしと一緒にお仕事してみない？”とお声掛けいただいて以来20年以上にわたり公私共にお付き合いいただき、財務のイロハを教えてくださいました。



と昨日のことのようです。会計をはじめとして数々の大役を歴任され財務委員長のころはまだ大学でも教えられていて忙しい中、手を抜くことなく総会、セミナーすべて参加され大学女性協会への気持ちは本当に熱いものがありました。私もなにしろ良いお手本に一生懸命ついていった気がします。今名称も内容も変わりましたが、あの頃は財務は、収益追求のためのバザー、観劇会、講演会、予算作成まであったので委員長は大変な仕事でした。井口さんのあの情熱はまだまだそのころからの委員の中に脈脈と残って細々ですが事業委員会の中で生き続けています。どうか安らかにお休みください。

(元財務委員長 藤谷 文子)

寄稿

同窓会の役員会での井口様は気安くお話しするのが躊躇われる大先輩のお一人でした。親しくお付き合いさせていただくようになったのは JAUW の会員になってからでした。10年位支部や財務や教育委員会などのお手伝いをしていた時に委員会・支部に関係なく親切にいろいろ教えてくださいましたし、小さなことにも気を使ってくださいました。その後、他の仕事でJAUWを10年位離れておりましたが、その間も行事に誘ってくださったり、声をかけてくだ

さいました。復帰した時以前と雰囲気の違い、自分の所在があやふやで戸惑い、当時井口様が委員長をされてらした財務委員会にお願いして入れていただけたのは幸いでした。それから既に19年！最近「またお茶しましょう」など言いながら時間がとれずにいたのが悔まれます。本当に残念です。井口様から、その生きかたからもっともっと学ぶべきでした。心よりご冥福をお祈りいたします。

(大森たへ子)

支部だより

北から～南から

多文化共生と女性の自立を柱に 静岡支部長 山下いづみ

Q 最近の支部の活動は？

A 今年、静岡支部は70周年、来年は全国総会を静岡支部でお引き受けいたしますので、2つの準備に大わらわです。過去10年の活動は外国にルーツのある方々が暮らしている静岡県ならではの多文化共生についてシンポジウム、研修、視察等しました。そしてここ3年は本部同様、女性の自立をテーマにセミナー等を企画しています。

Q ご当地自慢・支部自慢は？

A 静岡といったらお茶が自慢です。やぶ北茶が一般的ですが、西部～中部～東部とお茶の種類（香り、色、味）が微妙に違います。もちろん、淹れ方によっても変わってきます。近年、緑茶の需要が減少をしていると、茶畑を野菜畑に転換する農家さんもあります。しかし、緑茶は健康によいと、外国で需要が高まっており、これからお茶の良さを逆輸入するのではないかと考えています。オリンピックもひかえ、外国の方々がお茶を通して、日本のおもてなし精神を知るのではないのでしょうか。支部会員は個々に多様な活動をしており、会の集まりでは話題が豊富でとても楽しい支部です。社会情勢からご近所のお話まで、女性ならではの井戸端会議で、こういうことが、大学女性協会の会員でいることに喜びがあると思います。

Q これから力を入れていきたいことは？

A 多文化共生と女性の自立を柱に、それぞれの課題にたいして知恵を絞って協力をしていこうと話合っています。長きにわたり大学女性協会に所属している方々が多くいます。皆さんが一同に顔を合わせて交流ができる機会が少ないので、この点を工夫していきたいと思っています。

次回全国総会案内速報

2018年5月12日（土）支部長会 13日（日）総会 14日（月）観光ツアー
場所：中島屋グランドホテル（静岡市）



出版に向け支部を活性化 茨城支部長 加藤光子

Q 最近の支部の活動は？

A 2015年支部長の指名を頂き3年目を迎えます。この2年間はひたすら本づくりのための校正作業に没頭してきました。きっかけは、2014年、2015年と茨城大学のゲストティーチャーとして連続出前講座をしたこと。この講座を提供して下さった長谷川先生から出版を勧められたからでした。編集委員会を立ち上げ、試行錯誤を繰り返しながら毎土曜日が編集会議として定着し、6月3日第50回編集会議をもって1年有余にわたる編集・校正作業を終えました。先日『YOROIを脱いで』の原稿とデーターを出版社に渡してきました。これから9月完成するまで、出版社と初校・再校と調整が続きます。

Q ご当地自慢・支部自慢は？

A 先輩も新しい会員も参加した本作りは、正に人材の宝庫たるわが支部の総合力で完成したものです。支部会員も実行委員も限られた中で、編集委員になったメンバーには過酷な作業が続きました。土曜日は半日以上校正に終始し、まるで出版社の編集会議のような光景。最も本の完成を待ち望んでいた会員歴最長の静間敏子さんが、5月1日に逝去されました。本の序章と終章のポエムは彼女の作成によるものでした。出版が遅れ、静間さんに手渡せなかったのが悔やまれます。心よりご冥福を申し上げ、完成したあかつきには彼女に捧げたいと思います。

Q これから力を入れていきたいことは？

A ジェンダーや刷り込まれた思い込みを『YOROI』と表現し、男女共同参画社会を目指して『YOROIを脱いで』の本に託しました。支部員の思いの詰まった本を支部結成70周年の記念出版とし、記念講演・シンポジウムを開催します。今後は、この本を通して出前講座等を開催し若い世代へ伝え、2000冊の本を売り切ることにより力を入れていきます。



「古典落語と色物の会」 文化事業委員会

* JAUW としては、初めての落語会を開催します。
落語家の柳亭こみちさんは、9月に真打ちになれる女流落語家です。女性としては6人目、2人のお子さんを育てながらの活躍です。色物は今回は曲芸です。併せてお楽しみください。

日 時:12月7日(木) 13:30開演 会場:けやきホール
チケット代金:2,500円
☆お問い合わせは JAUW 事務所まで。

お知らせ 収益事業委員会

* 観劇

文楽「生写朝顔話(しょううつしあさがおばなし)」
日 時:9月17日(日) 第一部 11:00開演
会 場:国立小劇場
・チケット代金:7,000円 ・定員 15名
・申込み締切:7月25日(定員に達し次第打切り)

歌舞伎「霊験亀山鉾(れいげんかめやまぼこ)」
日 時:10月14日(土) 12:30開演
会 場:国立大劇場
出 演 片岡仁左衛門 他
・チケット代金:6,400円 ・定員 25名
・申込み締切:8月25日(定員に達し次第打切り)

雅楽「舞楽法会」
日 時:2018年1月20日(土) 開演時間未定
会 場:サントリールホール
舞楽と真言声明の共演
出 演 東京楽所 真言法饗会
・チケット代金:6,000円 ・定員 20名
・申込み締切:10月5日

☆詳細は JAUW 事務所あるいは HP で。

理事会から

- ▶ 国際奨学生2名(フィンランド・香港)が決まりました。
- ▶ 「初夏の札幌近辺親睦旅行(札幌・函館支部を訪ねて)」
6月26日(月)～28日(水)札幌・29日(木)函館
札幌支部と函館支部との親睦交流の旅が無事終わりました。神戸など9支部の31名の参加がありました。ありがとうございました。P10に旅行記を掲載しています。
- ▶ 8月5日(土)13:00～JAUW 事務所にて委員長意見交換会(予算、委員会活動など)を行います。各委員長、各担当理事の出席をお願いいたします。
- ▶ 「女性の自立一真のリーダーシップを発揮するために」をテーマに10月26日～27日、全国セミナーを開催します。詳細はP2と別紙を参照してください。
- ▶ ネットショッピングに関し楽天市場と協議中です。契約締結後には、JAUW の HP から、楽天市場にアクセスするとみなさまがお買物をされた金額の一部が JAUW にバックされます。JAUW の HP のトップページに楽天市場へリンクするバナーを用意いたしますので、収益事業の一環として是非ご利用ください。
- ▶ 事務所の夏季休業期間 8月14日(月)～18日(金)

2017年度国内奨学生募集のご案内

一般社団法人 大学女性協会 2017年度国内奨学生募集要項

I 応募資格

- 一般奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、学業人物ともに優れた者。
- 社会福祉奨学生 文部科学省の認可する大学の学部・大学院に在籍1年以上の女子学生で、身体に障害があり、かつ学業人物ともに優れた者。
- 安井医学奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、医学・歯学・薬学を専攻し、かつ学業人物ともに優れた者。
- *備考
 - ・経済的理由は、一切問わない。
 - ・1大学から各部門1名ずつ応募することができる。
 - ・過去に当協会の奨学金を授与された者は、再度応募することはできない。
 - ・在籍年数に休学期間は含まない。
 - ・翌年2月末日に、現在の大学に在籍であること。
 - ・社会福祉奨学生は、身体障害者手帳の交付を受けていること

II 支給額および募集人数

- 一般奨学生 大学院生 20万円 6名
- 社会福祉奨学生 学部生 10万円
- 大学院生20万円 学部生、大学院生合わせて3名以内
- 安井医学奨学生 大学院生30万円 1名
- *備考
 - ・応募状況により奨学生人数を変更することがある。
 - ・奨学金は1回限りである

III 提出書類

- (1) 履歴書(写真貼付)
- (2) 一般社団法人大学女性協会国内奨学生推薦書
・記入者は在籍する大学の学長・学部長・学科長・指導教員のいずれかであること。
・学長氏名・印又は奨学金担当者職名・氏名・印が必要。
- (3) 研究・勉学の内容について
・大学院生は様式 A
・学部生は様式 B
- (4) 研究および活動業績リスト
・大学院生のみ
- (5) 学業成績証明書
・在籍する(直近に在籍した)大学院(学部生は大学)のもの。
- (6) 身体障害状況報告書と身体障害者手帳の写し
・社会福祉奨学生のみ
- *備考
 - ・(1)(2)(3)(4)(6)は、所定の様式に従う。

IV 応募方法および締切り

応募者は、応募書類を在籍大学へ提出する。
大学は一括して2017年8月31日(水)(必着)までに、支部が設置されている都道府県の大学は当該支部に、支部が設置されていない県の大学は本協会本部に、応募書類を提出すること。

V 結果通知

選考結果は、本人・大学学長・推薦支部長に2017年11月末日までに通知する。

VI その他の留意事項

- (1) 一般奨学金、社会福祉奨学金、安井医学奨学金を授与された者は2019年3月31日までに本協会会長宛に「研究成果報告書」を提出すること。提出のない場合は奨学金の返還を求めることがある。
- (2) 国内奨学金贈呈式は2018年1月の予定。(詳細は後日通知する)
- (3) 不明の点は当協会又は当該支部に照会のこと。

本部 e-mail kokunaifellowship@jauw.org (国内奨学担当)

新入会員 理事会承認 2017年3月～6月

仙台支部	氏家 薫	長田かつよ	
東京支部	ゲルティンガー 祥子	田中 紀子	
	田中悠里子	西向みち子	松田 栄子
神奈川支部	池上賀英子	佐藤 陽子	
愛知支部	岡田 昌子	並木 美欧	
大阪支部	角田万里子	金村 恵	
岡山支部	鎌木 二葉	小林 利江	谷川 紀子
大分支部	木本 順子		

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101

電 話 03-3358-2882

F A X 03-3358-2889

http://www.jauw.org

E-mail:jauw@jauw.org

発行人 鷲見 八重子

編集責任者 穂田 信子

発行日 2017年7月24日